

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

建学の精神に則り、未来を生き抜くことができる資質・能力を培い、社会に貢献する自立した女性を育てる学校をめざす。本校では、「社会に貢献する自立した女性」を育成するために必要な資質・能力を、学力・協働性・主体性の3つと考える。この3つの資質・能力を構成する、『学ぶ力、考える力、解く力、認め合う力、行動する力 (KINRAN PRIDE)』を全ての教育活動を通じて育成する。

(1) 学力

- ① 学ぶ力＝生涯にわたり絶えず学び続けようとする意欲・姿勢
- ② 考える力＝習得した基礎的・基本的な知識・技能を、社会における様々な場面で活用できる力
- ③ 解く力＝習得した知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果を獲得するとともに、その成果を発信する力

(2) 協働性

認め合う力＝「ありのままの自分」を認め、他者の多様な個性や価値観、文化を理解し互いを尊重し人間関係をつくる力

(3) 主体性

行動する力＝自らの役割を把握し、その役割を果たすため、自リツ(自立・自律)的に行動する力

2 中期的目標

(1) 学校教育デザインの確立

① 学校教育デザインの具体化

全ての教職員は、「これからの社会に貢献する自立した女性」を育成する学校教育デザイン（めざす学校像・生徒に育みたい力）を具体化、共有化し、生徒・保護者に発信するとともに、日々の教育活動を見直し、生徒指導、学習指導を改善する。

② 「5つの力」の育成を実現する魅力的な学校づくりの推進

ア) グローバル人材の育成と近年強化していた英語教育の取り組みを活かした国際理解 (GS) コースを設置する。

イ) 学校教育デザイン（めざす学校像・生徒に育みたい力）に向けて現コースの成果と課題を検証し、コースのカリキュラム改編を含めコースの再編を検討する。

ウ) 中学部においても、その成果と課題を検証し、円滑な中高接続ができるように、カリキュラム改編を含め中学部の充実を図る。

(2) 学力の向上

① 学力向上策（基礎学力・学習習慣定着策）の実施

ア) 教職員は自ら「学ぶこと」の重要性を理解し、それに基づいて教育活動を行う。

イ) 多様な生き方を自分で判断し選択できる女性を育成するために、教職員は生徒に対して、「学ぶこと」の意味を理解させ、「学ぶ意欲」を喚起することで「自己効力感」を持たせる。あわせて、授業規律の確立、ICTの活用などで家庭学習の定着を図ることで、基礎学力の充実を図る。

② 授業力の向上

教職員の授業力向上を図ることで、すべての教科において、アクティブ・ラーニングを推進し、基礎的な知識や技能を活用し、論理的に考え、まとめ、発表する力を育成する。

③ 「総合的な探究の時間」のプログラムの確立

「総合的な探究の時間」(高校)・「総合的な学習の時間」(中学)のプログラムを確立するなかで、多様な人々・文化の出会いを通じて、コミュニケーション力、課題設定・課題解決能力を育成する。

(3) 進学実績の向上

① 3年間・6年間を見通した進路指導体制の確立

ア) 進路指導部は、各学年・教務部と連携し実力テストや模試等の客観的なデータを活用し、高校3年間を見通した進路指導体制を確立し、これからの社会で自立して生きていくために必要とされる、進路意識の醸成としっかりとした学力を育成する。

イ) 中学部は進路指導部と連携し、中高連携を図り、高校進学を含めた6年間を進路意識の醸成としっかりとした学力を育成する。

② キャリア教育の推進

これからの社会に貢献する自立した女性を育成するため、各コースは、金蘭会の強みである教育的リソース(大学、保育園、病院等)を活用したキャリアプログラムを確立し、社会で求められる女性の生き方、働き方を考える、3年間・6年間を見通したキャリア教育プログラムを策定する。

③ 千里金蘭大学・金蘭会保育園との連携

千里金蘭大学とのより効果的で密接な連携により、内部進学者を増加させる。

(4) 安全安心な学校づくりと自立・自律する力の育成

① 人間関係づくりの充実

各学年が、HRや道徳、学校行事等を通じて、生徒一人ひとりが多様な生き方を自分で判断し選択できる女性に必要とされる、自分のすばらしさを認め他者を尊重し受け入れる豊かな心を育み、多様性を尊重し共生する力、自立・自律する力を育成する。

② 生徒の主体性の育成

生徒指導部は、生徒指導方針や学校行事の目的・意義を再確認し、多様な生き方を自分で判断し選択できる女性に必要とされる主体的に考え行動する力を育成する。

③ 支援が必要とされる生徒への対応

ア) すべての教職員は、「支援」という観点で日々の教育活動を見直す。

イ) 生徒支援委員会は各学年と連携して、発達特性や不登校傾向生徒への支援策を検討し実施する。あわせて、スクールカウンセラーだけでなく、外部の医療機関等との連携も強化する。

(5) 魅力的な学校づくりと機能的な学校運営の確立

① 募集広報活動の強化と体制の充実

本校がめざす新たな教育の魅力を全面的にアピールするため、保護者や受験希望者、中学校や塾等のニーズを把握し、評価と分析を徹底し効果的な募集広報戦略を立てる。

② PDCAサイクルの徹底

各分掌・学年は、具体的なデータや根拠に基づいた総括や評価を徹底し、課題と方針を明確にするPDCAサイクルを確立する。

③ 組織運営体制の充実と教師力の向上

機能的な組織運営を図るため、職務の役割と責任を自覚する。計画的な人事計画のもと、適切な教員配置を実現する。また、外部教育機関等との連携を深め、教職員のスキルアップを図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年実施分] | 学校運営協議会からの意見 |
|---|---|
| <p>(1) 学校教育デザインの確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「授業満足度」保 66(-10) 生 71(-5) 「習熟度別指導」生 79 (6) 教 59 (19) ■ 「家庭学習定着」保 73(-4) 生 69(1) 教 65(8) ・ 高校や中学部、国語、数学、英語でチームティーチングや到達度別授業を実施。 ・ 到達度別授業の内容が個に応じた内容か[学力上位層の生徒の位置づけ]を含め検証を進める必要がある。 ・ 中学部での英語教育強化のため、3学期より英語パワーアッププログラムを実施。 ■ 「授業改善」保 79(-2) 生徒 73(-3) 教員 77(0) 「参加体験型」生 48(2) 教 71(21) ■ 「考えをまとめ発表」生 83(4) 教員 65(15) 「ICT等の活用」生徒 92(1) ・ 金蘭若手塾では、府教委主催研修参加教員から教育相談について、支援教育コーディネーターよりユニバーサルデザインについてスキルを学ぶ学習会を実施。 ・ Kinran.Lab では、学校運営における課題（授業改革、学校経営、LGBTQに関わる課題）についてチームリーダーを中心に定期的に学習会を実施。 ・ 授業改革において、研究授業(公民科・高2公共)を実施 ・ LGBTQに関わる課題について、教員研修を実施し、生徒には人権研修を実施。 ・ 「総合的な探究の時間」の完成年度として3年間の学習成果として「卒業レポート」を作成し、その成果をもとに、問題解決型学習への取組みが進む。 ・ 「思考力・判断力・表現力」の育成に向け、プレゼン発表やレポート作成などの改善が必要。 <p>(2) 進学実績の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「進路指導での連携」保 85(-1) 教 82(20) 「キャリア教育」生 91(4) 教 71(21) ■ 「大学等との連携」保 90(4) 生 71(2) 教員 78(4) ・ 保護者対象の進路保護者会や進路保護者勉強会を実施し、進路情報の発信を強化することで、保護者の進路意識を高め、生徒の進路実現に向け連携を強化。 ・ 勉強会等の実施時期や内容について検討する必要。 ・ 千里金蘭大学・金蘭会保育園との連携の強化と、進路探求プログラム・看護医療職プログラムの完全実施により系統だった指導が高く評価。 ・ 「夢キタ万博2023」や「KINRANハロウィン」など、地域との連携を強化し、キャリア（進路）学習を充実 <p>(3) 安全安心な学校づくりと自立・自律する力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「学校行事」保 91(0) 生 85(-1) 教 82(19) ■ 「自治会活動」保 89(3) 生 84(-2) 教 65(5) ■ 「生徒指導方針」保 82(1) 生 79(6) 教 59(19) ■ 「方針への共感」保 92(8) 生 71(2) 教 81(8) ■ 「人権教育」保 88(3) 生 76(2) 教 53(22) ■ 「安心な環境」保 89(3) 生 81(1) 教 77(18) ■ 「いじめへの対応」保 89(2) 生 82(5) 教 65(-4) ■ 「教育相談体制」保 89(1) 生 78(6) 教 65(13) ・ 蘭祭と体育祭の『生徒有志企画』、『縦割りの組編成』、『課題解決型修学旅行』など生徒が主体となった取組みが一定評価 ・ 課題解決に向けて行動する力を育成する必要がある。『生徒を主人公に』＝『生徒は主権者に』という観点で支援するが必要。 ・ 生徒指導の評価について、保護者・生徒とも上昇しているが、納得感が低い。また、教員との意識の差が大きい。保護者・生徒との意思疎通が不十分で、生徒層の変化への対応の不十分さから、腑に落ちていない点も残しながらの指導となっている。 ・ 生徒が指導の必要性・教育的意義をしっかりと理解し納得することができる指導に改善する必要がある ・ 生徒支援委員会を中心とした不登校生徒に対する支援体制について、保護者・生徒から一定の評価 ・ 不登校傾向の生徒に対する学力保障の仕組み（自宅学習教材の提供）を実施するが、対象生徒への実施には至らなかった。 ・ 不登校傾向の生徒の増加に伴い、入学した生徒に対するためには、早期からの学力保障の仕組みを確立する必要がある。 ・ そのため、生徒相談体制とアセスメントの充実（スクールカウンセラーとの連携強化、外部機関との連携等）が必要。 <p>(4) 魅力的な学校づくりと機能的な学校運営の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「方針の明示」教 83(17) 「校内体制」教 39(-9) 「教員間連携」教員 34(13) ■ 「会議運営」教 41.2(-8) 「計画的な研修」教員 65(24) ■ 「若手教職員の育成」教 65(26.8) 「校外研修」教員 65(27) ・ 校長の学校経営方針が明確に示されているが、学年や分掌において教職員間のコンセンサスが不十分で方針の具体化ができず、組織力を向上させる必要。 ・ 組織改革を実施し、適所適材の人事配置と役割分担により、教職員が意欲的に取り組むことができる環境にある。 ・ 前例踏襲という職員の意識改革と効率的な組織運営をめざす必要。 ・ 教育相談、ユニバーサルデザインについて学習会を実施 | <p>第1回</p> <p>議題 令和5年度学校経営計画及び学校評価資料について</p> <p>報告</p> <p>○学校より令和5年度 学校経営計画及び学校評価について説明 めざす学校像である「社会に貢献する自立した女性を育てる学校」を軸に具体的な教育活動を行う説明を5つの項目から時間の関係上絞って報告がなされた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆学校教育デザインの確立 ◆学力の向上 ◆進路実績の向上 ◆安心安全な学校づくりと自立・自律する力の育成 ◆魅力的な学校づくりと機能的な学校運営の確立 <p>委員からの意見</p> <p>○昨年、修学旅行の場所など異議があったが探究などで勉強していることもあり、参加してみるともっと深く知りたいなど思っていた</p> <p>○国内であっても行ってみると色々な経験ができたとのこと。探究の時間として今後も修学旅行はこれまでの観光重視型ではなくコロナ関係なく地域課題として探究する形になるのか。</p> <p>○先日の地域の夢キタ万博に参加したとき、同じく職業体験や服をリメイクしてファッションショー参加していた中学生が自信に満ち溢れている瞬間を見ることができた。コロナ禍で人に触れる機会がないなかの世代の為、地域の取り組みに参加して頑張る自分をいろいろな世代の人にみてもらうことなど自信がつく。いい学びではないのではと思う。</p> <p>○同じくこの取り組みに参加した高校生は40分くらいインタビューを体験した。その保護者が応援、祖母は認める言葉をかけている光景であった。親子でも縦の関係、縦と横（生徒同士）しかない状況で行き詰った時の『ナナメ』からの支えが重要視されるのではないかと感じた。</p> <p>○先生方が起立性調節障害について研修を行うと聞いており、安堵している。息学と思われるかもしれないが、この病気についても理解を深めてほしいと感じた</p> <p>○進路について親も受験を勉強する時代である。保護者に対しての勉強会に参加するが働く保護者が多いので参加が難しい場合がある。オンラインなどでハイブリット対応をしていただければと希望する提案がなされた。</p> <p>○勤務先の保育園でも登園できない問題も抱えているので先生や保護者と連携をとりながらおこなっている。</p> <p>第2回</p> <p>議題 2024年度アンケート結果と分析について</p> <p>報告</p> <p>○学校より、2023年度 学校アンケート結果と分析について説明</p> <p>学力の向上、進学実績の向上、安全安心な学校づくりと自立・自律する力の育成、組織運営体制の改善、その中でそれぞれ絞って具体的な概要として関連する質問項目の中から説明がされた。</p> <p>委員からの意見</p> <p>○充実した学校生活の為の取り組みに理解ができた。学校から社会に出てからの思考力や判断力、表現力の重要性を感じている 前回よりポイントがあがっている取り組みが結果につながっていると感じた。</p> <p>○地域で子ども食堂を運営しており、食を通じてコミュニケーションを図ることをしている。コロナ禍で4年間黙食続いていた為、食べることを通じてのコミュニケーションが難しい状況となっていた。「食」「育」などを連携とりながら発信していきたい。また、夢キタ万博に参加し、生徒が元気に参加している姿をみると地域との連携の大切さを感じた。</p> <p>○学校の色々な取り組みがよくわかった。アンケート（参照）にていじめの対応の項目で76.8%から82.2%に生徒対応が伸びており学校に対して信頼感を感じた。英語パワーアッププログラムやKinran.Labにも期待している。</p> <p>○総合的な探究の時間の卒業レポートかなりは苦戦した様子を間近でみていた。社会にでても役立つのではと感じた。また、PTAもコロナが明け色々な行事が復活し、ゼロの状態からのスタートで今後、連携をとりながらバランスのとれた協力体制を行う。</p> <p>○授業について総合的な探究の時間の取り組みが教科教育でも反映されている。それぞれの教科が探究的学びに変化していく。今後さらに追究していくべき状況であると感じる。指導要領の指針もあり実現させる必要がある。</p> <p>○学校の取り組みについて自信をもって学外につたえることができている。中学部の内容も充実している為、学校案内が高校と中学が分冊になった。少しずつ結果に繋がっていると感じている</p> <p>○学力向上は＝（イコール）社会で生きる力であり、社会に繋がっていることが必要と認識する。それを限られた時間の中で整理している。実践や体験をどう繋げていくかが課題である。出口（進学実績）など地域との連携の強化が必要と感じる。</p> <p>○生徒が安心して登校できるかなど基本的に教員が話を聞き生徒にどう寄り添うかが根底にあり、結果に繋がっている。PTAより支援していただいているカウンセリング、場の回数も増やしており寄り添う形が学力の向上につながったのではと感じる。</p> <p>○いじめに関してもすぐに対応している。未然防止、早期発見対応を心掛けている。カウンセリングについても保護者の方も利用されている。利用者の保護者からは心に余裕をもって子どもと接することが対応できたとの報告がある。</p> <p>○昨年、中学部で夢キタ万博に参加。上田安子専門学校の学生と一緒に古着を使ったりリメイク服を作りファッションショーに参加、声援が自信に繋がった。『互いの成長を知り共有し自らの成長に繋げ称えあい学ぶ』をテーマに以前のダンス発表会や合唱などにプラス中学生生活を通じての発表マーチフェスタとして開催した。</p> |

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|------------------|--|---|--|---|
| 1 学校教育デザインの確立 | (1) 学校教育デザインの具体化 (2) 「5つの力」の育成を実現する魅力的な学校づくりの推進 | ○組織方針の立案と組織の活性化 各部長・主任は、各組織をまとめ、「5つの力」を3年間(6年間)で育成する方針を明確化し、組織間連携を深め、職員会議、企画運営委員会、教科主任会議を通じて共有化する。 ① 総合的な探究の時間、課題解決型修学旅行、外部団体[NPO等]との連携事業の成果から、より発展させカリキュラム全体に広げ、カリキュラムの充実を図る。 ② 金蘭会高大連携連絡会議を窓口に、高大連携プログラムの効果的な実施、内容の充実を図る。また、他の外部組織(医療機関、幼稚園・保育所、大学)との連携も推進する。 ③ 授業方法の工夫(習熟度別授業・チームティーチング)の成果を受け、引き続き学力の定着を図るとともに、学力上位層の生徒の学力をさらに伸ばす取組の実施など、個に応じた丁寧な指導を実施する。 ④ 中学部では、引き続き学力保障の取組の充実を図る。また、高校を含め、千里金蘭大学・金蘭会保育園、地域や同窓会等との連携を進め、連携授業や職場体験等キャリア教育の充実を図る。 | ●アンケート「満足度」 (保護者)95% [91%(R4)] (生徒)95% [86%(R4)] (教員)90% [81%(R4)] ●アンケート「特色ある教育活動」 (保護者)90% [81%(R4)] (生徒)90% [82%(R4)] (教員)70% [25%(R4)] ●アンケート「教育方針明示」 (保護者)95%[85%(R4)] ●キャリアプログラム体験週間の実施 | (1)●「満足度」(保護者)94%(○)・(生徒)86%(△) ●「特色ある教育活動」(保護者)82%(○)・(生徒)81%(○) ●「教育方針の明示」(保護者)85%(○) ・保護者・生徒に対して、方針について理解を得ているが、現実的な取り組みが、3年間(6年間)で「5つの力」を具体化が不十分で、実践の成果を十分に伝えることができなかった。 ・科・学年・分掌が組織として、「5つの力」をどう育てるかという意思決定が不十分で、各組織間の連携も不十分であった。 (2)●「満足度」(教員)79%(△) ●「特色ある教育活動」(教員)39%(△) ・学年、教科・エリア、進路指導部それぞれが千里金蘭大学、金蘭会保育園、外部団体との連携を積極的に実施した。 ・「夢キタ万博2023」や「KINRAN ハロウィン」など、地域との連携を強化することで、キャリア(進路)学習の充実を図っている。 ・英語教育の強化の一環として、4年ぶり海外研修(オーストラリア)を復活するとともに、中学部での英語教育の強化のため、中学校で3学期より英語パワーアッププログラムを実施する。 ・総合的な探究の時間」の成果をもとに、問題解決型学習への取組み、高2「文化理解」(文理進学コース[総合])、高3「探究」(文理進学コース[総合])・(看護医療)を実施する。 |
| 2 学力の向上 | (1) 学力向上策の実施 (2) 授業力の向上 (3) 「総合的な探求の時間」のプログラムの確立 | ① 授業方法の工夫(チームティーチングや習熟度別授業)を進化することでわかりやすい授業の充実を図る。 ② 学力上位層の生徒の学力をさらに伸ばす取組の充実をはかるため、授業づくりの研修を進める。 ① 教科主任会議・コース長会議の定例化を図り「観点別評価」の課題を明らかにする。 ② kinran lab と連携し、研究授業週間年2回(6月、11月)に設け、教員相互の授業見学を実施する。また、各教科は期間内で必ず研究授業を実施する。 ③ 金蘭若手塾と連携し、授業づくり・評価の在り方・生徒理解を中心とした研修を行い、『金蘭会授業スタンダード』を作成する。 ① 高校において、「総合的な探究の時間」の3年間プログラムを確立する。また、修学旅行は、「課題解決型修学旅行」として位置づける。 ② 中学において、道徳と連携し、キャリア教育の観点で、「総合的な学習の時間」の充実を図る。 ③ 金蘭会高大連携連絡会議を窓口に、高大連携プログラムの効果的な実施、内容の充実を図る。 ④ 中学部は、中高連携の取組を図り、高校進学を含めた6年間を見通した、進路意識の醸成と進路を実現する学力を育成する。 | ●アンケート「授業満足度」 (保護者)85% [76%(R4)] (生徒)85% [76%(R4)] ●アンケート「家庭学習定着」 (保護者)90% [77%(R4)] (生徒)80% [68%(R4)] (教員)65% [57%(R4)] ●アンケート「授業改善」 (保護者)90% [80%(R4)] (生徒)85% [75%(R4)] (教員)90% [77%(R4)] ●アンケート「参加体験型」 (生徒)70% [55%(R4)] (教員)65% [47%(R4)] ●アンケート「考えをまとめ発表」 (生徒)90% [79%(R4)] (教員)60% [50%(R4)] ●アンケート「キャリア教育」 (生徒)75% [66%(R4)] (教員)65% [55%(R4)] ●アンケート「生き方を考える」 (保護者)95% [87%(R4)] (生徒)85% [73%(R4)] (教員)60% [52%(R4)] ●授業公開と研究協議会の開催 ●外部講師による研修 | (1) ●「授業満足度」(保護者)66%(×)・(生徒)71%(×) ●「家庭学習定着」 (保護者)73%(×)・(生徒)69%(△)・(教員)65%(○) * 高1到達度別授業([英]ベーシック・アドバンス)、リメディアルの充実(国数英における到達度別授業) * 高2英表現Ⅱ到達度別授業(ベーシック・アドバンス) * 中1国:語彙力・読解力・表現力[読み・書き]の学習[週1時間実施)、数:チームティーチング[週1時間] * 中学数:習熟度別授業(標準・発展)、英:週1時間実施 * 中学校英語パワーアッププログラム ・高校や中学部とも引き続き、国語、数学、英語においてもチームティーチングや到達度別授業を実施した。 ・今後は、到達度別授業の内容が個に応じた内容になっているのか[学力上位層の生徒の位置づけ]を含め検証を進める必要がある。 ・中学部での英語教育の強化のため、中学校で3学期より英語パワーアッププログラムを実施する。 (2)・(3) ●「授業改善」 (保護者)78%(△)・(生徒)73%(△)・(教員)77%(△) ●「参加体験型」(生徒)47%(△)・(教員)71%(○) ●「考えをまとめ発表」(生徒)83%(○)・(教員)65%(○) ・金蘭若手塾では、教育相談について、ユニバーサルデザインについてスキルを学ぶ学習会を実施する。 ・Kinran.Lab では、中堅教員を核に授業改革、学校経営、LGBTQ に関わる課題についてチームリーダーを中心に定期的に学習会を実施する。 ・授業改革において、研究授業(公民科・高2公共)を実施する。 ・今年度が、「総合的な探究の時間」の完成年度として3年間の継続的な学習成果として「卒業レポート」を作成する。 ・「総合的な探究の時間」の成果をもとに、高2「文化理解」(文理進学コース[総合])、高3「探究」(文理進学コース[総合])・(看護医療)の実施で問題解決型学習に取組む。 ・「思考力・判断力・表現力」の育成に向け、プレゼン発表やレポート作成などの改善が必要である。 |

| | | | | |
|-------------------------------------|---|---|--|---|
| <p>3 進学実績の向上</p> | <p>(1) 3年間或いは6年間を見通した、一貫した進路指導体制の確立</p> <p>(2) キャリア教育の推進</p> <p>(3) 千里金蘭大学・金蘭会保育園との連携</p> | <p>① 計画的な進路HRや進路学習を通して3年間・6年間を通じた継続的な進路学習計画を実施する。</p> <p>② 最新の進路情報をかりやすくて確かな情報を提供し、3者すべてにおいて進路意識を高めていく。</p> <p>③ 実力テスト(11月)を高1・2で1回ずつ実施。高3では2回(6月・9月)実施し、正しい学力をはかり進路への正しい認識を持たせる。</p> <p>④ 進路指導部と学年の連携を図り、実力テスト等のデータをしっかり把握して、学力の向上をめざす。</p> <p>① 進路学習については、高校の各学年課題に応じて「職業別」「学問分野別」「入試直前」等の進路HRを実施する。</p> <p>② 「社会で貢献する女性を育てるプログラム」として「進路探求プログラム」を実施する。</p> <p>③ 保護者対象のキャリア教育プログラム(進路説明会等)を充実させ、進路情報の発信を強化する。</p> <p>④ 教員進の路指導力を強化するため、入試制度やその他進路に関わる情報を共有するとともに進路研修を実施する。</p> <p>① 中学部でのプログラ高校・大学間に担当者・実務者会議を通じて、進路HR、「総合的な探究の時間」、各教科、その他学校行事等で円滑に効果的な連携を進め「中高大連携プログラム」の充実を図る。</p> <p>① 3者面談期間(6月・11月)に千里金蘭大学説明会の実施、学長はじめ大学関係者の講話などの活動を通じて内部進学を促進を図る。</p> | <p>●アンケート「進路指導(連携)」 (保護者)95%[86%(R4)] (生徒)90%[78%(R4)] (教員)75%[62%(R4)]</p> <p>●アンケート「進路指導(取り組み)」 (保護者)95%[90%(R4)] (生徒)95%[84%(R4)] (教員)65%[55%(R4)]</p> <p>●保護者対象の進路説明会実施</p> <p>●アンケート「キャリア教育」 (生徒)75%[66%(R4)] (教員)65%[55%(R4)]</p> <p>●アンケート「生き方を考える」 (保護者)95%[87%(R4)] (生徒)85%[73%(R4)] (教員)60%[52%(R4)]</p> <p>●コース独自キャリアプログラムの実施</p> <p>●アンケート「大学等との連携」 (保護者)95%[86%(R4)]</p> | <p>●「進路指導(連携)」(保護者)85%(△)・(教員)84%(○)</p> <p>●「進路指導(取り組み)」 (保護者)90%(○)・(生徒)84%(○)・(教員)55%(×)</p> <p>●「キャリア教育」(生徒)91%(○)・(教員)71%(○)</p> <p>●「大学等との連携」 (保護者)90%(○)・(生徒)71%(○)・(教員)78%(○)</p> <p>* 進路保護者勉強会の実施(年3回)</p> <p>* 進路探求プログラムの実施(長期休業中)</p> <p>* 看護医療職プログラム(多根総合病院・住友病院・聖パルナバ病院)の実施</p> <p>* 中3千里金蘭大学食物栄養学科との連携授業[11,12月]</p> <p>* 中3千里金蘭大学児童教育学科・金蘭会保育園との保育交流[11,12月]</p> <p>* 高3千里金蘭大学食物栄養学科との連携授業[家庭科、12月]</p> <p>* 高1・2千里金蘭大学児童教育学科[子ども教育エリア、7,12,2月]</p> <p>* 中1・2職業講話[3月]</p> <p>* 中学部「夢キタ万博2023」[11月]</p> <p>* KINRANハロウィン[子ども教育エリア、10月]</p> <p>* 中学部「マーチフェスタ」(3月)</p> <p>・ 保護者対象の進路保護者会や進路保護者勉強会を実施し、進路情報の発信を強化することで、保護者の進路意識を高め、生徒の進路実現に向け連携を強化している。</p> <p>・ 勉強会等の実施時期や内容について検討する必要がある。</p> <p>・ 千里金蘭大学・金蘭会保育園との連携の強化と、進路探求プログラム・看護医療職プログラムの完全実施により系統だった指導が高く評価されている。</p> <p>・ 「夢キタ万博2023」や「KINRANハロウィン」など、地域との連携を強化することで、キャリア(進路)学習の充実を図っている。</p> |
| <p>4 安全安心な学校づくりと自立・自律する力の育成</p> | <p>(1) 人間関係づくりの充実</p> <p>(2) 生徒の主体性の育成</p> <p>(3) 支援が必要とされる生徒への対応</p> | <p>① 学年は、生徒の状況の集約に努め、学年の3年間を見通した「学年集団づくり」方針を確定する。</p> <p>② 市民として主体的に社会に参画する力を育成するため、生徒を主語にした安全・安心なクラス・学年集団づくりを行う。</p> <p>③ 学年は、学年行事(修学旅行、遠足等)での生徒による主体的・自治的な取り組みの促進を図るため、生徒実行委員会等を組織する。</p> <p>① 成人年齢が18歳になることを受け、市民として主体的に社会に参画する力を育成するため、制服問題について、生徒委員会を組織するなど主体的な取り組みを推進する。</p> <p>② 蘭祭・体育祭等の学校行事について、昨年に引き続き、生徒自治会を核に生徒の参画を推進して行く。自治会と生徒委員会を連携させて、実施形態や方法を検討し、生徒による運営を進める。</p> <p>① 生徒支援委員会の定例化を図る。学年は、一定の基準(文科省基準に基づく)に基づき、生徒をリストアップし、状況を丹念に把握する不登校生徒対象の学習支援体制の充実を図る。</p> <p>② 生徒支援委員会は、生徒支援策の具体化のため、引き続きスクールカウンセラーと連携を密にとる。また、出身中学など関係機関と連携する。</p> <p>③ 支援教育コーディネーター(正・副)を核に生徒支援のサポート体制を整備する。</p> <p>④ 先進校(通信制も含む)の取り組みを参考に、各教科が責任をもって教材研究(教材づくり)を進める</p> | <p>●アンケート「人権教育」 (保護者)95%[85%(R4)] (生徒)85%[75%(R4)] (教員)70%[31%(R4)]</p> <p>●アンケート「安心安全な環境」 (保護者)95%[85%(R4)] (生徒)90%[80%(R4)] (教員)70%[59%(R4)]</p> <p>●アンケート「いじめへの対応」 (保護者)95%[88%(R4)] (生徒)90%[77%(R4)] (教員)80%[69%(R4)]</p> <p>●アンケート「生徒指導方針」 (保護者)90%[81%(R4)] (生徒)80%[73%(R4)] (教員)70%[40%(R4)]</p> <p>●アンケート「方針への共感」 (保護者)95%[84%(R4)] (生徒)80%[70%(R4)] (教員)85%[73%(R4)]</p> <p>●アンケート「学校行事」 (保護者)95%[91%(R4)] (生徒)95%[86%(R4)] (教員)75%[63%(R4)]</p> <p>●アンケート「生徒自治会活動」 (保護者)90%[82%(R4)] (生徒)95%[86%(R4)] (教員)80%[60%(R4)]</p> <p>●アンケート「教育相談体制」 (保護者)95%[88%(R4)] (生徒)90%[77%(R4)] (教員)70%[52%(R4)]</p> | <p>(1)●「学校行事」 (保護者)91%(○)・(生徒)85%(○)・教員82%(○)</p> <p>●「生徒自治会活動」 (保護者)89%(○)・(生徒)84%(○)・(教員)65%(○)</p> <p>(2)●「生徒指導方針」 (保護者)82%(△)・(生徒)80%(○)・(教員)59%(△)</p> <p>●「方針への共感」 (保護者)92%(△)・(生徒)71%(△)・(教員)81%(○)</p> <p>・ 蘭祭と体育祭の『生徒有志企画』、『縦割りの組編成』、『課題解決型修学旅行』など生徒が主体となった取組みが一定評価されている。</p> <p>・ 生徒については、学校行事に対する不安が残っている。その意見を吸い上げ、課題解決に向けて行動する力を育成する必要がある。『生徒を主人公に』=『生徒は主権者に』という観点で支援するが必要である。</p> <p>・ 生徒指導の評価について、保護者・生徒とも上昇している。ただ、保護者・生徒との意思疎通が図る必要がある。</p> <p>・ 生徒が指導の必要性・教育的意義をしっかりと理解し納得することができる指導に改善する必要がある。</p> <p>(3)●「人権教育」 (保護者)88%(○)・(生徒)76%(○)・(教員)53%(○)</p> <p>●「安心安全な環境」 (保護者)89%(○)・(生徒)82%(○)・(教員)77%(○)</p> <p>●「いじめへの対応」 (保護者)89%(△)・(生徒)77%(○)・(教員)65%(△)</p> <p>●「教育相談体制」 (保護者)89%(○)・(生徒)78%(○)・(教員)65%(○)</p> <p>・ 生徒支援委員会を中心とした不登校生徒に対する支援体制について、保護者・生徒から一定の評価を受けている</p> <p>・ 不登校傾向の生徒に対する学力保障の仕組み(自宅学習教材の提供)を実施する。しかし、対象生徒への実施には至らなかった。</p> <p>・ 不登校傾向の生徒の増加に伴い、入学した生徒を責任もって卒業させるためには、早期からの学力保障の仕組みを確立する必要がある。</p> <p>・ 生徒相談体制とアセスメントの充実(スクールカウンセラーとの連携強化、外部機関との連携等)が必要である</p> |

| | | | | |
|--|------------------------------------|--|---|--|
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">5 魅力的な学校づくりと機能的な学校運営の確立</p> | <p>(1) 様々な場面を通じた効果的な募集広報活動への改革</p> | <p>① イベントでは、学校が変わろうとしている姿がストレートに伝わるような広報活動(イベント内容の改善、ホームページ・SNSの充実)を図る。</p> <p>② 訪問活動に関しては、重点地域(主に大阪市内)を過去の実績から大きく見直し、集中して訪問する体制を整える。</p> | <p>●中学校オープンスクール参加数 各回 20 組以上</p> <p>●中学校入試説明会参加数 各回 20 組以上</p> <p>●高校オープンスクール参加数 各回 100 組以上</p> <p>●高校入試説明会参加数 各回 100 組以上</p> | <p>(1)・目標である中高併せて 200 名には達しなかったが、中高併せて 198 名を達成した。</p> <p>・イベント参加者は実人数で中学 130 名、高校 555 名と昨年度から中学 35 名、高校 103 名程度増加している。</p> <p>・中学では、目標には届かなかったが、昨年度を 9 上回る結果となった。これは中学部の取組に興味を持つ受験生が増えたこと、わくわく教室等で金蘭会のことを知る近隣の小学生が増えてきたことも一因である。</p> |
| | <p>(2) 将来安定的な中学入学者の獲得</p> | <p>○ 地域との連携強化を強化する。北区との連携事業への参加、土曜日プログラムの復活(小学生対象の英会話教室など)の充実を図る。</p> | <p>●学校運営協議会の実施</p> <p>●自己評価アンケート結果と学校運営協議会評価のホームページ公開</p> | <p>・高校でも目標に届かなかったが、昨年度を上回ることはできた。無償化の影響で公立志望者が減少し、併願の戻りが極端に減少するなかで、専願を増やせたのは大きかった。コースの学びや、生徒の雰囲気などが徐々にいい印象として広まり、その結果受験者が増えている。</p> |
| | <p>(3) PDCAサイクルの徹底</p> | <p>○ 各分掌学年は、具体的なデータや根拠に基づいた総括や評価を徹底し、課題と方針を明確にするPDCAサイクルを確立する</p> | <p>●教職員研修の実施</p> <p>●若手対象教職員研修の実施回数</p> <p>●アンケート</p> | <p>(2)・地域の小学生対象のわくわく教室を再開し、過去実施していた英会話や新体操だけでなく、多方面にわたる春・夏・冬に計 31 回を実施し、延べ人数 264 名の参加を得た。</p> <p>(3)・学校運営協議会を 2 回実施した</p> <p>・自己評価アンケート(12 月)の結果を学校運営協議会(3 月)に報告した。</p> |
| | <p>(4) 組織運営体制の充実と教師力の向上</p> | <p>① 主任・部長の職責の徹底を図る。各部長・主任は、明確で具体的な方針を組織に提示し、議論を深め共有化を図る。また、論点が整理された方針を会議に提示し全体での共有化を図る。</p> <p>② 金蘭若手塾や KinranLab.を核に、中堅・若手層が中心となって、授業力向上や学校が直面する課題(制服問題等)を課題解決に取り組む。具体的には、『金蘭会授業スタンダード』の作成、制服検討員会での検討・提案を行う。</p> | <p>「教員間連携」 60% [31%(R3)]</p> <p>「会議運営」 60% [45%(R3)]</p> <p>「計画的な研修」 60% [41%(R4)]</p> <p>「若手教員の育成」 60% [38%(R3)]</p> <p>「校外研修」 60% [24%(R3)]</p> | <p>(4) ●「教員間連携」44%(○)「会議運営」41%(×)</p> <p>●「計画的な研修」65%(○)「若手教職員の育成」65%(○)</p> <p>「校外研修」65%(○)</p> <p>* 組織の改編</p> <p>* 金蘭若手塾主催の教育相談・ユニバーサルデザインについての研修</p> <p>* Kinran.Lab 主催の学校経営・授業改革・LGBTQ に関わる課題の 3 テーマでの研修、研究授業の実施(公民科)</p> <p>* 喫緊の教育課題に関する教職員研修[起立性調節障害が・性の多様性・ハラスメント]</p> <p>・学年や分掌において教職員間のコンセンサスが不十分で方針の具体化ができず、組織力を向上させる必要がある。</p> <p>・一部の係を廃止するなど組織改革を実施し、適所適材の人事配置と役割分担により、教職員が意欲的に取り組むことができる環境にある。</p> <p>・前例踏襲という職員の意識改革をさらに進め、さらに効率的な組織運営をめざす必要がある。</p> <p>・金蘭若手塾では、府教委主催研修参加教員による教育相談について、支援教育コーディネーターによるユニバーサルデザインについてスキルを学ぶ学習会を実施する。</p> <p>・Kinran.Lab では、中堅教員を核に学校運営における課題(授業改革、学校経営、LGBTQ に関わる課題)についてチームリーダーを中心に定期的に学習会を実施する。</p> <p>・喫緊の教育課題に関する研修をタイムリーに実施することができた。生徒理解を深めることができ、生徒指導スキルの向上に役立っている。</p> |